資源循環アワード

－ 応募取り組みのまとめ －

2026 年 11 月 13 日

磐田市ごみ資源循環課

すずなりさんのくふう
農業法人による“地球に優しい新たな養蚕業のカタチ”

実施者：株式会社　鈴生
推薦者：中村　紗雪

■取り組みの概要■

株式会社鈴生様は、規格外品の野菜の再利用や、クリーンエネルギー（太陽光発電）の活用などといった、持続可能な循環型社会の実現につながる取り組みを養蚕業のなかで実施されています。

■他薦の理由■

2025年の産業振興フェアinいわたで鈴生様が出展されていたことが取り組みを知ったきっかけです。そこで、従来の養蚕とは違った新しい養蚕を磐田市内で取り組まれているとお聞きして、後日、カイコが大好きな娘と飼育施設へ見学に伺いました。見学を通じ、野菜からカイコ、そしてウナギへと繋がる循環する仕組みに親子で感銘を受け、磐田市にこのような素晴らしい取り組みと新たな挑戦をしている企業をより多くの磐田市民の皆様にも知っていただきたいという思いから、小学2年生の娘より推薦いたします。

すずなりさんのくふう

中村紗雪



きっかけ

カイコのしいくしせつへいったことがきっかけです。なぜいったかというと、カイコがかわいくて、ぷにぷにしてて すきだからです。すずなりさんのいいとりくみをしって、みんなにもつたえたかったので、まとめました。

すずなりさんがやっていること

すずなりさんはやさいをそだてています。そのやさいはへんな形のものもありますが、あじはかわらないので、カイコのえさのざいりょうに、きかくがいのえだまめやさつまいもをつかっています。

えだまめはわけありひんとしても、ちょくばいじょで、はんばいしていました。

ちょくばいじょのばしょ

いわ田市西貝塚208-1

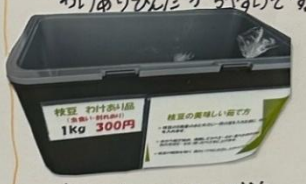
えだまめを食べてみたかんそう

あじはふつうのえだまめといっしょでした。食べるのとカイコのえさのざいりょうに、つかうのには、形はかんけいありません。それをすてるのはもったいないので、このとりくみはいいとおもいます。

きかくがいのえだまめ



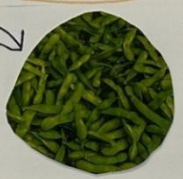
わけありひんだからやすいです。



きかくがいのえだまめでつくったピザ



しょうひんとして、うるえだまめです。



こうじょうできかくがいのえだまめはよけていました。



3Rのとりくみ

ロリデュース

きかくがいのやさいをちょくばいじょでやすくうる。

ロリユース

サナギをとりだしたまゆはまゆクラフト(こうさく)のざいりょうとしてつかう。

ロリサイクル

サナギをウナギのえさにかこうしてあたえる。

きかくがいのやさいはカイコのえさにかこうする。

きかくがいのやさいをかんそうさせてカイコのえさを作る。

カイコにえさをあげているところ



さつまいもやえだまめをかこうしたもの。



のうやくに弱いカイコのえさにもつかえる人にもちきゅうにもやさしいあんぜんなおやさい



カイコをそだてるにはエアコンがひつようなので、ソーラーパネルでつくったでん気でカイコをそだてる。

このまゆはすずなりさんにゆずってもらったまゆなのでしょうかいします。

まゆはまゆクラフトにもつかえます。





カイコがえさを食べてまゆを作ってサナギになる。

サナギをウナギに食べさせると、うまみがつよく、あじのこいおいしいウナギになります。





サナギをすてずにうなぎに食べさせる。

公式WEBサイト
Official Website
everysilk.com

シルクをパウダーにして、そのパウダーをつかったけしょうひんです。





めくってね。

SDGSのとりくみ





「届けよう、服のチカラ」プロジェクトへの協力

磐田市立南部中学校　奉仕委員会

■取り組みの概要■

本校では、生徒たちが地域や世界に貢献することを学校全体で学ぶため、2021年度より、ファーストリテイリング社（ユニクロ・GU）が主催する「届けよう、服のチカラプロジェクト」に協力しています。

本プロジェクトの取り組みとして、毎年１年生を対象に、同社の社員による映像授業等を実施しています。授業を通して難民キャンプで暮らす子どもたちの現状を学んだうえで、着なくなった子ども服の回収活動を行っています。回収にあたっては、学校内にとどまらず、CSD（コミュニティ・スクール・ディレクター）とも協力し、地域の方々からも広く子ども服を集めています。

集まった子ども服は、ファーストリテイリング社を通じて難民キャンプの子どもたちへと届けられます。多くの人を巻き込みながら「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに協力することを通して、生徒だけでなく地域にも世界に貢献するという意識を広めていくことを目指しています。

生徒の感想

「１年生の道徳で、『服のチカラ』プロジェクトの動画を見て、難民キャンプに子供服を送って協力したいと思っていました。少しでも役にたてればうれしいです。」





生ゴミと枯葉、剪定枝のリサイクル

栗田　きくえ

■取り組みの概要■

私は生ゴミと細葉の枯葉と剪定枝のリサイクルをやりました。

まず生ゴミですが、台所の小さいゴミと大きいゴミに分けます。

シンクの水切りカゴに溜まった細かいゴミは、猫などに荒らされないように家の中で処理しています。りんご箱くらいのダンボールを2つ用意し重ね、そこに「ピートモス3kg弱」と「もみ殻燻炭約700g」を入れてよくかき混ぜます。その中に生ゴミを入れて1日埋め込んでおき翌日かき混ぜます。そうして出来上がった有機肥料は野菜や花に施します。

みかんの皮やスイカの皮など生ゴミの中でも大きなゴミは、畑に穴を掘って入れかき混ぜて埋めます。次に埋める時はその隣に穴を掘ってかき混ぜて埋めます。これを繰り返し、リサイクルスペースが一杯になったらまた、はじめに埋めた所からスペース一杯まで埋めます。1ヶ月以上寝かせてからそこに野菜などを植え付けます。

次に枯葉と剪定枝のリサイクルです。庭や畑をキレイに保ちやすくするために、枯葉と剪定枝を庭のあらゆる場所に置いています。

まず１か所目は水をたくさん必要とするクレマチスです。クレマチスの根元と地面に細葉や椿の枯葉を置きます。剪定した時はその上に切り取った枝葉をおきます。その後枯葉を入れる時は剪定枝の下に入れ、さらに剪定した時は一番上に載せます。そしてここが満杯になったら畑で腐葉土として使います。

２か所目は瓶の底に穴を開けて作った高さ1メートル程の鉢に植えて大きくなった桜の木です。鉢の底にはたくさんの細葉の枯葉が入れてあります。そして鉢の表面にはクレマチスと同様、細葉や椿の枯葉を置いてその上から剪定枝などを置きます。こうする事によって枯葉の中は湿っていて植物を守ってくれます。これは森林の中の落葉と同じ効能があります。

３か所目は裏庭です。縦1.5メートル横3メートル程の植え込みがあり、落葉は全てそこに置いています。

４か所目は畑に植えてある細葉の大木です。その木の根元に細葉の枯葉を置いてありますが、今後剪定をした時は枯葉が風で飛ばされないように剪定枝を上から置く予定です。

最後は畑に植えてあるホメロ(柑橘類)の大木です。木の根元の方が広いためまずは細葉の枯葉、その上からナスやピーマンの枯れ枝、そして剪定枝もたくさん置きます。こうする事によって土の保湿が保たれるので、木にとっても夏の暑さや乾燥、冬の寒さや乾燥も凌げると思います。

このようにする事によって庭や畑もキレイに保ち易く出すゴミの量も格段に減り、植物にとっても豊かな土壌となり保湿も出来るので水道量も減り、全てにおいて好循環だと思います。ゴミ処理にかかる費用、時間、作業量を削減出来てたいへん有効だと思います。







ラグビーの力で繋ぐ、持続可能な資源循環の輪
～SCRUM Actionによる多角的な3R展開と地域・国際貢献～

静岡ブルーレヴズ株式会社

■取り組みの概要■

静岡ブルーレヴズでは、事業活動を通じて社会課題の解決に貢献するプロジェクト「SCRUM Action」を推進しています。その重点テーマである「FOOD（食）」「Diversity（多様性・国際交流・障がい者支援）」を軸に、ホストエリアである磐田市やパートナー企業、そしてスタジアムに集うファンと「スクラム」を組み、資源循環型社会の実現に向けた以下の3つのリユース・リサイクル活動を展開しました。

① 食品ロス削減と福祉支援を両立する「フードドライブ」

■内容：ヤマハスタジアム等でのホームゲーム開催時に、家庭で余っている食品の寄付を募るブースを設置しました。磐田市ごみ資源循環課およびフードバンクふじのくにとの連携により実施しています。

■実績：2025年5月3日：276点（約43kg）の食品を回収。
2025年12月28日：242点（約39kg）の食品を回収。

■効果：回収された食品は、社会福祉協議会等を通じて支援を必要とする方々へ届けられ、廃棄物の削減（リデュース）と直接的な社会福祉支援に繋がっています。





② スポーツの力で国際貢献を実現する「Blue Ties」

■内容：ヤマハ発動機と連携し、家庭で使う機会が少なくなったスポーツウェアを回収。これらを、同社が海外の無電化・無水道地域に設置する「ヤマハクリーンウォーターシステム」のメンテナンス活動等に合わせて、新興国の村落へ届けるリユース活動です。

■実績：
2025年12月21日：40組から計150点（Tシャツ、シューズ等）を回収。
2026年3月28日：計301点を回収。

■効果： 国内で活躍する場面が少なくなった衣類を海外の必要とされる場所で再活用することで、地球規模での資源循環を促進するとともに、スポーツを通じた国際交流に寄与しています。



③ 就労支援と廃棄物再利用を融合させた「バナー・アップサイクル」

■内容：過去のシーズンで使用し、廃棄予定だったスタジアムバナー（掲出幕）を素材として再利用。磐田市内の就労継続支援B型事業所「サンサンいわた東原」の利用者が、一つひとつ手作りでトートバッグを制作しました。

■実績： 2026年2月14日のホームゲームにて、20点のアップサイクルバッグを限定販売し、完売。

■効果： 廃棄物の削減（リサイクル・アップサイクル）に加え、障がいのある方々の就労機会の創出と工賃向上を同時に実現しました

廃棄される鉄からインテリア雑貨を製作

東海熱処理株式会社

■取り組みの概要■

＜経緯＞　当社は工業用刃物のメーカーです。製造工程として、材料となる鋼材の購入、シャーリング、熱処理、レーザーカット、ホーニング、テンショニングなどの工程があります。どの工程においても作業ミスや不良品の発生は起こりますが、とりわけ、熱処理については繊細な工程になるため不良品の発生率も高くなりがちです。不良品は鉄屑回収業者に回収してもらうのが通常です。しかし、熱処理後の廃材はそのまま廃棄物としてしまうには勿体無い材料です。理由は①熱処理という繊細な工程を経ている（コストがかかっている）②熱処理後の鋼材は傷・錆に強く、しかも表面の表情が美しい　この熱処理後の鋼材の特性を生かしたリユース的な取り組みができないかと考えました。

＜内容＞　私たちはB to B のメーカーですのでB to C の製品を作り、東海熱処理株式会社を一般消費者の方々にも認知していただきたい、それにはどのようなモノを作ったら良いか、マーケティングの専門家にもご教示をお願いしながら試行錯誤しました。条件としては、東海熱処理株式会社の廃材を利用すること、当社が既に保有する工作機械でできるもの。結果、熱処理後の鋼の表情を味わっていただけるモノ、廃材の持つレトロな雰囲気を活かせるモノを製品化することになりました。具体的には万年カレンダー、ティッシュケース、照明BOX、アクセサリー類などです。製品化の次はECサイトの立ち上げ、インスタグラム投稿と一般消費者の方々に廃材から生まれるインテリア雑貨、アクセサリー類を知っていただく努力をしています。また、事務所の玄関をディスプレイスペースとし私たちの取り組みを製品としてご覧いただきながら廃材から生まれるレトロな雰囲気を来客の方々に感じていただけるよう工夫しています。

＜効果＞　工業用刃物メーカーが上記のようなインテリア雑貨・アクセサリー類を製作しているという意外性のようなものが来客された方々の目を引きます。採用活動においても応募者の方からインスタグラムを見ました！という声を聞くなど、少しずつですが廃材から生まれる製品の認知が広がっているのを感じます。また、磐田市役所さんのふるさと納税にもしていただいています。とりわけ、廃材を活用している事への驚きや称賛は私たちにとってこの上ない喜びです。リユース的に活用できている廃材は限られたものですが、アイテムを増やしていき少しでも多くの廃材を製品化していく活動を続けていきたいと考えています。

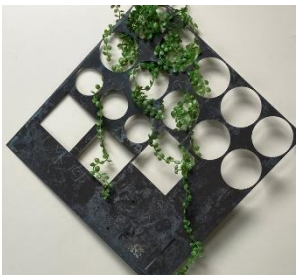


廃材









廃材の形を生かした活用例





廃材をレーザー加工機でカット

We are Ryuyo!「服のチカラプロジェクト」

磐田市立竜洋中学校

■取り組みの概要■

本校では、学校経営の手段としてESD（持続可能な開発のための教育）を推進しています。SDGsについて学び、3年生は自分で決めた１つの目標について探求学習を行っています。学校全体としては、ユニクロが主催する「服のチカラプロジェクト」に参加し、その概要や意義を「総合的な学習の時間」を利用して学び、地域や家庭にこども服の回収への協力を呼び掛け、福祉掲示委員会が11月末までに回収した服をサイズ別に仕分けて発送しました。

子ども服の回収は、各学年の昇降口にサイズ別の段ボールを用意し、期間中常に回収をしました。また、「竜洋海洋フェスタ」に竜洋中学校の紹介ブースを設置し、「服のチカラプロジェクト」の子ども服の回収を行いました。地域の方々から数多くの子ども服を寄付していただくことができました。（写真①）
回収したこども服を福祉掲示委員会がサイズ別に選別し、所定の段ボールに入れてユニクロへ発送しました。（写真②、③）

■7月に行った「服のチカラプロジェクト」授業の生徒の感想（一部）
「自分の渡した服で喜んでくれるのだったら私も服を送ってみようかなと思った。難民になる人は何かしら心に傷を負っている方が多いですが、それでも立ち上がって仲間といっしょに仲良く幸せにいれるのはすごく自分も嬉しい気持ちになれる。自分が国から追いやられ、難民になってしまうなら、先が思いやられ、何もできないと思います。でも、今回の動画で見た少女は、あきらめないで苦しくても助け合っていました。あきらめないことは何よりも大切な言葉で行動、原動力になるものなのだなと思いました。」
「本当に『世界に届く』、ということが印象に残った。『寄付したい』と思っても『届く』、という実感がわかなくて今まで積極的に行動しようと思ってなかったけど、話の中の動画を見て実感が湧いた。服は国ごとの文化によって適切なものが違うので、世界各国の人々にあうように服を選別しているのはすごいなと思った。」


写真①


写真②


写真③